

6. 海上安全対策

6.1 ソマリア沖・アデン湾における海賊問題

1. ソマリア沖・アデン湾における海賊問題の現状

海賊事件は、従来よりマラッカ・シンガポール海峡をはじめとする東南アジアやインド周辺などで多発してきた。ところが2007年頃から、ソマリア沖・アデン湾において海賊事件が急増している。東南アジア等の海賊事件とアデン湾で急増している海賊事件との大きな違いは、前者が船内の金品を目標として、人質を取ったり、船員に危害を加えたりするのに対して、後者は機関銃やロケット砲といった重火器で武装し、船舶ごとハイジャックして身代金を要求する点である。

図に示したとおり、アデン湾はアジアと地中海・欧州域とを結ぶ海上交通の要衝にあり、わが国にとって、また世界各国にとっても、必要な物資の輸送に欠くことのできない航路となっている。

この海域を通航する船舶は、世界全体で年間約2万隻と推定されており、当協会が会員船社を対象に実施した調査では2007年に2181隻、2008年に2103隻、2009年には1784隻の船舶が通航している。なお、2009年の通航隻数が減少しているのは、リーマンショックに伴う荷動量の減少によるものと思われる。

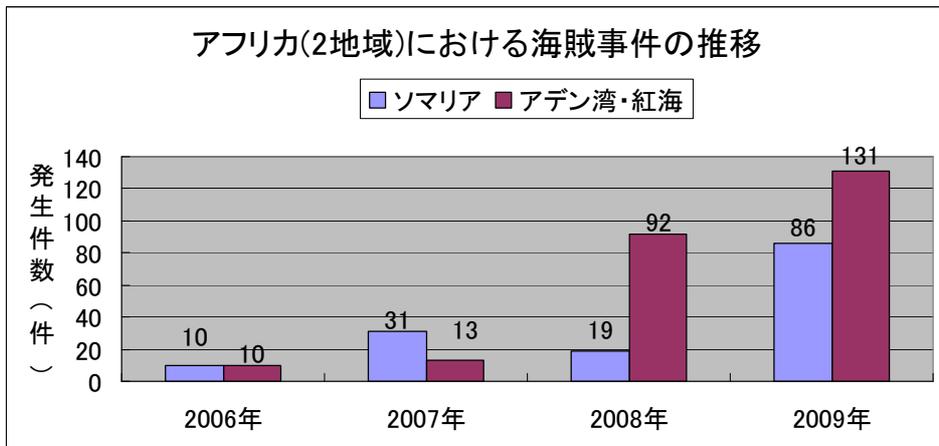
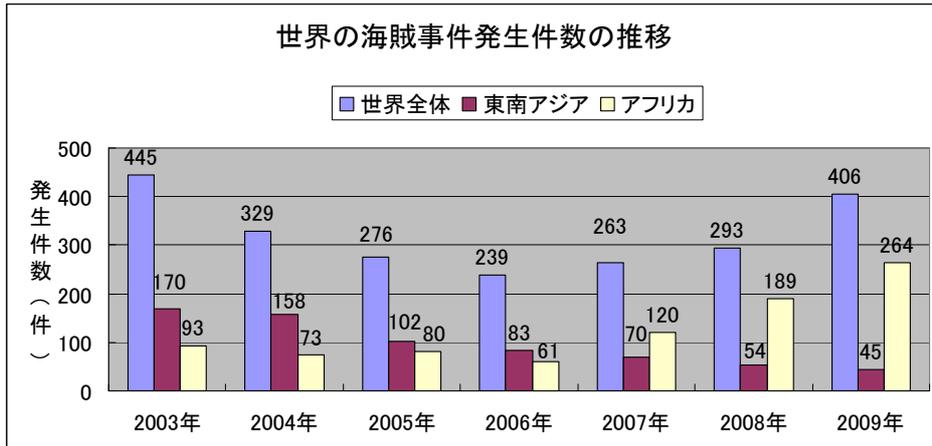
ソマリア沖・アデン湾における海賊事件の発生件数を見ると、2007年には47件(うちハイジャック11件)であったが、2008年には111件(同42件)、さらに2009年には217件(同47件)とこの3年間で5倍増となっている(表1)。

【図1】アデン湾の位置



【図2】海賊事件発生件数の推移

出所：国際海事局（IMB）資料



【表1】アフリカ(2地域)における船種毎海賊事件

船種	2008年	2009年
ばら積み船	27隻 (9隻)	71隻 (12隻)
ケミカルタンカー	19隻 (10隻)	24隻 (6隻)
一般貨物船	18隻 (9隻)	24隻 (5隻)
油タンカー	15隻 (1隻)	30隻 (1隻)
コンテナ船	9隻 (0隻)	22隻 (2隻)
漁船	6隻 (5隻)	19隻 (10隻)
上記以外の船舶	17隻 (8隻)	27隻 (11隻)
合計	111隻 (42隻)	217隻 (47隻)

()内はハイジャックされた船舶の隻数

2. 当協会の活動とわが国の海賊対処活動

(1) 当協会の要望活動

ソマリア・アデン湾における海賊事件が急増する中、2008年4月に日本籍大型タンカーがソマリア沖で海賊と見られる不審船に襲撃されたことを受け、当協会は冬柴国土交通大臣(当時)に航行安全の確保を要望したが、その後も同海域の海賊事件が頻発したため、2008年10月にも金子国交大臣(当時)に海賊防止のために効果的・具体的な対策を講じるよう要望した。

一方、国連の安全保障理事会は、ソマリア沖・アデン湾における海賊事件の多発という事態を重く受け止め、2008年10月、各国に海賊対策のため軍艦や軍用機を配備するなどの対応を促す決議を採択し、これを受けて有志連合軍(CTF151)、EU軍のほか、ロシア、インド等十数カ国が約20隻以上の艦船を派遣した。

わが国では、公海上での犯罪行為に対する警察権の行使は、一義的には海上保安庁の管轄とされている。しかしながら、2008年10月の海上保安庁長官による国会答弁では、遠距離の航海に耐えうる海上保安庁の巡視艇が1隻しかないこと、また海賊が所持する重火器への対応、諸外国が派遣している艦船が軍艦であること等の理由から、同庁の巡視船を派遣することは困難との表明があった。

このため、当協会は2009年に入り、麻生総理大臣(当時)、河村内閣官房長官(当時)、浜田

防衛大臣(当時)等の閣僚や、超党派の国会議員で構成される海事振興連盟に対して海上自衛隊艦船の派遣を要望した。

(2) わが国の海賊対処活動

政府は、2009年1月28日、安全保障会議において自衛隊法第82条による海上警備行動の発令により海上自衛隊を派遣する方針を固め、3月13日に同行動を発令した。翌14日、護衛艦「さみだれ」「さざなみ」の2隻がソマリア沖・アデン湾へ派遣されるとともに、5月28日にはP-3C哨戒機2機がジブチに派遣され、アデン湾海域での海賊対処活動が開始された。

さらに、6月24日に海賊行為の処罰および海賊行為の対処について規定する新法が恒久法として公布され、7月24日に施行された。第2陣として派遣された護衛艦「はるさめ」「あまぎり」は、7月28日より同法に基づく護衛活動を開始した。また、同法により、外国関係船舶を含むすべての船舶の護衛が可能となった。

なお、これら海上自衛隊艦船による護衛は、護衛対象の商船が船団を組み、この前後を護衛艦が伴走する形で行われている。

(3) 護衛活動実績

2008年3月30日から開始された海上自衛隊による護衛活動実績は、2009年2月12日現在で、護衛回数107回、護衛船舶総数は632隻、うち日本関係船は275隻となっている(表2参照)。

わが国の護衛活動は、直接護衛方式を採用していることや護衛スケジュールの正確性等の理由から、内外の関係者よりきわめて高い評価を得ている。

【表 2】海上自衛隊護衛実績

	海上警備行動による護衛 (08/3/30～7/20)	海賊対処行動による護衛 (08/7/28～09/2/12)
護衛活動	計 41 回 (東航 20 回、西航 21 回)	計 66 回 (東航 33 回、西航 33 回)
護衛船舶数	121 隻	511 隻
(うち日本関係船)	(121 隻)	(154 隻)
(1 回当たり平均船舶数)	(3.0 隻)	(7.7 隻)

【参考】わが国の海賊対策と当協会の活動

2008-4-22	冬柴鐵三国土交通大臣(当時)に、日本籍大型原油タンカーが不審船からの発砲で被弾した事件の発生を踏まえ、安全確保のための万全の対応を要望
2008-9-12	アデン湾航行安全対策本部 設置(本部長: 筧孝彦新和海運社長、当時)
2008-10-10	金子一義国土交通大臣(当時)に前川会長(当時)が面会し、海賊事件が頻発する状況に鑑み海賊を防止するより効果的かつ具体的な対策を要望
2008-11-26	定例記者会見において、前川会長は、日本の艦船を派遣することも含めて早急にできる具体的対策の実行を政府に求めたい旨をコメント
2009-1-5	麻生太郎内閣総理大臣(当時)・河村建夫内閣官房長官(当時)に前川会長が面会し、まずは現行法の枠組みでの海上自衛隊艦船の即時派遣を要望
2009-1-7	当協会と全日本海員組合は、現行法の枠組みでの海上自衛隊艦船の即時派遣を政府へ要望する共同声明を発表
2009-1-15	海事振興連盟の会合において、一日も早い対策の実施へ協力を要請。同連盟は、まずは現行法の枠組みの中で海上自衛隊艦船の派遣の早急な実施が極めて重要との認識で一致し、その実現に取り組むとする決議を採択
2009-1-15	浜田靖一防衛大臣(当時)に前川会長が面会し、海賊問題への対応について協力を要請
2009-1-16	海事振興連盟 中馬弘毅会長(当時)は、麻生太郎内閣総理大臣(当時)に面会し、上記決議に基づき、海上自衛隊艦船の派遣の早急な実施を要望
2009-1-28	麻生太郎内閣総理大臣(当時)および関係閣僚による安全保障会議において、自衛隊法第 82 条による海上警備行動を発令して海上自衛隊艦船をソマリアへ派遣する方針が固まり、浜田靖一防衛大臣は、海上自衛隊へ艦船の派遣に向けた準備を指示
2009-3-14	海上自衛隊護衛艦第 1 陣「さみだれ」「さざなみ」が呉基地より出港
2009-4-21	衆議院 海賊・テロ特別委員会に前川会長が参考人として出席・発言
2009-4-23	衆議院にて「海賊行為の処罰及び海賊行為への対処に関する法律(以下:海賊対処法)」案が可決

2009-5-13 ~15	新聞主要各紙に海賊対処法に対する意見広告を掲載
2009-5-28	海上自衛隊 P-3C 哨戒機が厚木航空基地より出発
2009-6-19	海賊対処法可決・成立、同日宮原会長は感謝のコメントを発表(同7月2日には官邸訪問)
2009-6-24	海賊対処法公布
2009-7-6	海上自衛隊護衛艦第2陣「はるさめ」「あまぎり」が横須賀・舞鶴基地より出港
2009-7-24	海賊対処法施行
2009-8-16	海上自衛隊護衛艦第1陣が呉基地に帰港
2009-10-13	海上自衛隊護衛艦第3陣「たかなみ」「はまぎり」が横須賀基地より出港
2009-11-29	海上自衛隊護衛艦第2陣が横須賀・舞鶴基地に帰港
2010-1-15	前原誠司国土交通大臣(当時)に宮原会長が面会し、同海域での海賊事件減少の兆しが見られないことから、より効果的な護衛活動実施のためにあらゆる手段を検討いただくよう要望
2010-1-18	北澤俊美防衛大臣に宮原会長が面会し、海賊問題への対応について協力を要請
2010-1-29・ 30	海上自衛隊護衛艦第4陣「おおなみ」「さわぎり」が横須賀・佐世保基地より出港